すべての子どもの多様で豊かな可能性を開花させるために
－　技術と人間性が調和する未来志向の教育の推進
" Technology & Heart: Learning for the Future"　－

皆様、あけましておめでとうございます。それぞれが、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和 7 年は、グローバル情勢の混迷により不確実性が高まる中で開催された関西万博において、最新の科学技術や AI の可能性が世界に発信され、人とテクノロジーが共に未来を創る姿が示された年でした。また、日本で初めて開催されたデフリンピックでは、多様性と共生の大切さが改めて注目され、国籍や障害を越えた心のつながりが多くの感動を呼びました。一方で、生成 AI などデジタル技術の進展に伴う負の側面や、記録的猛暑による熱中症対策などの課題も浮き彫りとなり、学校現場における時代に即した教育と児童生徒の安全・安心の確保が改めて問われています。

このように希望と課題が交錯する時代において、Society5.0 の進展はさらに加速し、先端技術が私たちの暮らしに深く関わるようになっています。これからの社会を担う子どもたちには、生涯にわたり主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、しなやかに自らの人生を舵取りする力をはぐくむことが求められています。

このような力をはぐくむためには、子どもたち一人ひとりが自ら問いを立て、探究し、対話を通じて学びを深めていく教育が求められます。学びの場は教室の中にとどまらず、地域や社会、さらには国際社会へと広がり、そこで展開される実践的な学びを通じて、子どもたちは現実の課題に向き合い、自ら解決の道を切り拓いてくのです。その際、異なる背景や価値観を持つ他者との協働を通じて、多様性を尊重し、持続可能な共生社会を築こうとする姿勢も極めて重要となります。

未来を創造する教育の営みにおいて、私たちは今こそ、その本質に立ち返り、不変の価値を大切にしながら、時代の変化に応じた新たな学びを柔軟に取り入れていくことが求められています。そうした教育の中でこそ、子どもたちはしなやかに、そして力強く、自らの人生を歩むための確かな土台を築いていくのです。

教育委員会では、学校教育と生涯学習・社会教育の境界線を取り除き、「一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する幸せを保障する教育」の実現を目指してきました。

公民館、図書館、博物館等では、講座やボランティア活動等を通じて、多世代の学びの場が広がり、生涯にわたって学び続ける文化が根づきつつあります。一方、学校教育では、ICT の活用や多様な学習支援の充実により、自分らしく学べる環境や自分の個性や特性等に応じて学びや居場所を選ぶ環境の整備に努めてまいりました。その結果、教室で仲間と対話しながら学びを深めたり、様々な場所で自分のペースで学びを進めたりするなど、子どもの学びの姿が大きく変わろうとしています。

このようなことから、令和 7 年本市の子どもたちは、学力などの認知能力と自己肯定感な

どの非認知能力が、小・中学校共に全国学力・学習状況調査において全国平均を大きく上回る結果となりました。また、20 年以上にわたり全国に先駆け実施してきた本市独自の小・中一貫した外国語教育の成果として、英語教育実施状況調査で６回連続日本一になったことに加え、浦和中学校が全国中学生英語ディベート大会で５度目の優勝を果たしました。

一方、全国中学校体育大会では、団体３種目、個人 15 名が入賞したのをはじめ、吹奏楽では、土屋中学校が３年連続の日本一になり、大宮南小学校が連続して金賞を受賞しました。

しかしながら、昨年１２月に国が示した令和６年度のいじめや不登校等に関わる実態調査結果においては、その数値が昨年度に引き続き全国的に過去最多となり、本市も例外ではありませんでした。

こうした現実に真摯に向き合いながら、すべての子どもたちの学びと育ちを支えるために、令和８年は、これまで積み重ねてきた取組の成果を礎として、さいたま市教育が次の次元へと進化する「変革の扉を開く飛躍の年」と位置づけるとともに、さいたま市が誕生してから 25 年という節目の年にふさわしい教育の進化を目指す一年といたします。新設大和田小学校および「いろどり学園小学部・中学部」の開校もその象徴の一つです。これまでの延長線上にとどまることなく、未来を見据えた新たな価値を創造するための大胆で力強い一歩として、いよいよ「さいたま市教育」の新しい章が幕を開けます。

そこで、令和８年の念頭に当たり、これから本市の教育の進むべき方向性を３つお示しします。

Ⅰ　未来を拓く、新たな学びの章へ――教育 DX の本格展開

これまで推進してきた「さいたま市スマートスクールプロジェクト」の成果と課題を整理し、それぞれの観点を再定義した「さいたま市教育 DX グランドデザイン ～学びの再定義、未来の創造～」のもと、これまで積み重ねてきた改革をさらに進化・発展させ、デジタル学習基盤を活用した新たな「学び方」「教え方」「働き方」改革に挑んでまいります。その具体的な一歩として、更新される児童生徒用端末と、今後導入予定の教職員向け次世代型校務支援システムを連携させ、本グランドデザインを基盤に「教育の質」と「働き方」を両輪とした改革を進め、いよいよ新たなステージへと踏み出します。

情報端末の進化は、「学び方」や「教え方」に大きな転換をもたらし、子どもたちが困難を乗り越えることを助け、一人ひとりの可能性をさらに引き出す力を持っています。同時に、教職員の業務を効率化し、子どもと向き合う時間や研鑽する時間などを確保することで、教育の本質に立ち返る「働き方改革」を飛躍的に促進させます。

しかし、どれほど技術が進化しても、AI には代えられないものがあります。 それは、人と人とのつながりの中ではぐくまれる感性や、創造性、そして人の心を動かす力です。だからこそ、「デジタルかリアルか」といった二項対立に陥らず、「デジタルの力でリアルな学びを支える」という基本的な考えに立ち、バランス感覚をもって、積極的に取り組むことが肝要です。

教育 DX は、単なる効率化ではなく、体験や交流などリアルと掛け合わせることで、すべての子どもたちが希望を持ち、自分らしく輝ける新たな章の扉を開けます。私たちは、Technology & Heart 技術と人間性が調和する未来志向の教育を、力強く推進してまいります。

併せて、教育 DX を通じた業務の効率化による「量的な働き方改革」と、教職員の専門性の向上を軸とした、やりがいなど「質的な働き方改革」を両輪として推進してまいります。これにより、教職員の学びが子どもの学びに還元される環境を整え、教職員と子ども双方の Well-being（幸せ）を向上させることで、最終的に「子どもの幸せを保障する教育」の具現化を目指します。

Ⅱ　すべての子どもに届く学びのために――カリキュラム・マネジメントの充実

これからの教育には、子どもたち一人ひとりの多様な背景や実態に応じて、学校が自らの目標を明確にし、家庭や地域と連携しながら柔軟に教育課程を編成・実践していく「カリキュラム・マネジメントの充実」が不可欠です。それは、単なる授業時数の調整ではなく、「どのような力を育て、どのように社会とつなげていくか」を見据えた、学校全体の創造的な取組です。

教育委員会では、こうした実践を力強く後押しするツールとして策定した「カリマネデザインマップ」の活用を一層促進し、学校が家庭・地域と連携しながら、子どもたちの成長を踏まえた協働を通じて、地域に根差した質の高い教育活動が着実に展開されるよう、全力で支援してまいります。カリキュラム・マネジメントの充実は、学校の教育力を高めるだけでなく、地域とともに子どもたちの未来をはぐくむ新たな教育文化を生み出します。地域の教育資源や人材とつながりながら、子どもたちが学んだことを地域社会の中で生かすこの取組は、“社会に開かれた教育課程”の実現に向けて、今こそ求められる実践です。教育委員会と学校は、こうした挑戦を積み重ねることで、すべての子どもが意欲をもって学び、自らの可能性を最大限伸ばすことのできる教育の実現に一丸となって取り組んでまいります。また、不登校等児童生徒の実態に応じて学習内容や授業時数を柔軟に設定した特別な教育課程を編成する「いろどり学園」は、すべての子どもたちの学ぶ権利を保障することを目的に、多様な学びのあり方を追求する本市独自の取組であり、全国に先駆けた先進的な教育の実践拠点です。デジタルと対面の良さを生かし、子どもたち一人ひとりの好きや強みを生かしながら、多様性を包摂する柔軟な教育課程により、個に寄り添った教育を展開します。

「いろどり学園」での実践は、児童生徒一人ひとりに応じた支援や指導のあり方を具体的に示すものであり、今後、各学校での支援体制の充実に大きく貢献します。「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、「いろどり学園」から確かな一歩を踏み出します。

Ⅲ　エージェンシーを育てるコミュニティ・スクールの力 ―― 共に語り、共に創る、未来の学びのかたち

子どもたちの学校教育に対する思いや願いに真摯に耳を傾け、その声を尊重することは、学校が民主的で公正な社会の縮図として機能するために不可欠です。児童会・生徒会をはじめとする自治的な活動を通して、子ども達が校則などのルール形成や学校生活の改善、学校行事の企画・運営に主体的に関わることは、発達段階に応じた民主的な学びの実践となります。加えて、子どもたちが学校・学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた合意を図るプロセスを重視することや、自らの声を通じて学校づくりに主体的に参画する意義を明確に位置づけていくことが求められます。さらに、学校での学びを地域の課題解決に生かす経験を通じて、子どもたちは自らの学びが地域社会とつながっていることを実感し、地域の一員としての責任や役割を自覚していきます。こうした実践の積み重ねが、未来の主権者としての力をはぐくみ、持続可能な共生社会の基盤を築いていくのです。

そこで重要となるのが、子どもたち自身が学校運営協議会に参画し、学校と地域のあり方や未来について意見を交わす機会を保障することです。子どもたちが自ら学び、考え、主体性を持って行動する力――すなわち「エージェンシー」をはぐくむためには、学校と地域が連携し、子どもたちの声を生かす仕組みが不可欠です。学校だけでは担いきれない課題に対して、地域とともに応えていく体制を築くことこそが、コミュニティ・スクールの真の価値であると考えます。

こうした取組を通して、子どもたちは自らの意見が尊重され、地域社会に影響を与える実感を得ることで、自信と責任感をはぐくみます。そして、多様な他者と対話し、協働しながら課題を解決していく経験を重ねる中で、主体的に社会参画する「持続可能な社会の創り手」へと成長していくのです。

令和 8 年、60 年に 1 度訪れる丙午というエネルギーに満ちたこの年に、さいたま市の教育は「新たな章の扉」を力強く開きます。その舞台に立つのは、未来を生きる子どもたち、そしてその可能性を信じて支える教職員です。私たちは、「日本一の教育都市」で「日本一幸せな子ども」を育てるという理念のもと、学校と力を合わせ、すべての子どもが個性と可能性を尊重され、安心して学び、成長できる環境を整えてまいります。包摂的で質の高い学びを保障し、子どもの多様で豊かな可能性を開花させる教育を、共に力強く推進してまいりましょう。

新しい年が、皆様にとって幸多き素晴らしい年となりますことを心から祈念し、年頭に当たっての訓示といたします。

皆様方、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和 8 年 1 月 5 日
教育長　竹居　秀子